

奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 6

(秋号： 2)

2001. 11. 1

A N C : News Letter

※ 11/10・11 請島にて撮影

今年もまたサシバの鳴き声やフヨウの花の開花で秋の到来を確認しました。私事ですが、今年の秋は、「秋の夜長・・・」にと好天の夜にはやわらかい月光に誘われて浜辺などでお月見を楽しんだり、各地の豊年祭りや伝統行事を観たり、また散策にと日中や夕暮れどきに山などに出かけのんびり歩いてみたり、昨年とはまたひと味違った奄美の秋を楽しみました。

秋の山には赤や紫、茶褐色などの木の実がたくさんなっていました。それぞれ同じ木の実でも緑色から赤へ、青色から紫、さらに褐色へと変化していく様子から秋の深まりを感じました。

先日、事務局内で生きものの色について話題になりました。謎も多いのですが、生きものの色には様々な意味合いがあるのを知りました。例えば、木の実や花の色には生きものたちに見つけやすい鮮やかな色にすることによって、たねを運んでもらったり、受粉してもらったりして「種の保存」につながっているということでした。自然の摂理にはちゃんと意味があることを再認識しました。また自然や生きものを、様々な視点から観ると知識だけではなく同じものでもとらえ方や感じ方がちがってくるのだということに気づきました。毎年訪れる同じ季節を、その時々でちがった感じ方ができたら楽しいだろうなあと、感性を磨きたいと強く思った今年の秋でした。



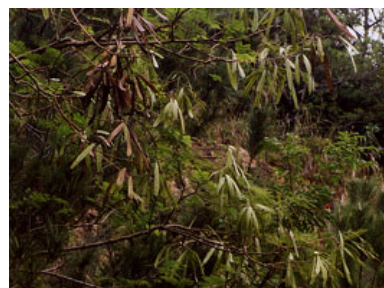
「オオハマボウ」



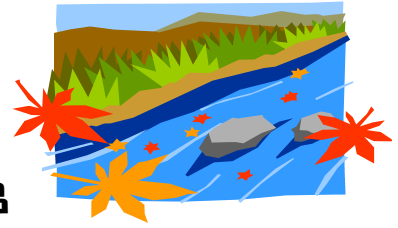
「ゲットウの実」



「テリハノブドウ」



「ギンネム（ギンゴウカン）」



§ 第2回「やせいのいきもの絵画展」の出展作品 募集と絵画展開催について…。今回のテーマは「虫」です！！

昨年に引き続き第2回「やせいのいきもの絵画展」を開催します。今年は、身近にいる小さな生きものにスポットをあてました。普段あまり気にとめなかった場所など、身近に虫たちの世界があります。身近な虫たちの世界を観察しながら絵を描くことで、子供たちが、また絵画展を鑑賞される方々が奄美の自然の素晴らしさを感じていただけたらと考えています。

そこで、第2回「やせいのいきもの絵画展」出展作品を募集いたします。応募について詳しくは次のとおりです。

【募集内容】

締め切り：平成13年11月末日必着

テーマ：「虫」

用紙サイズ：画用紙B4サイズ

パステル、水彩絵の具、
油絵など種類は問いません。

応募資格：小・中・高校生

入選者発表：平成13年12月上旬予定
(本人へ直接通知)

【賞】

いきもの大賞：小学生の部（1名）

中高生の部（1名）

いきいき賞：小学生の部（2名）

中高生の部（2名）

ユニーク賞：小学生の部（3名）

中高生の部（3名）

※以上、入選者には賞状と副賞を贈呈します。

【送り先・お問い合わせ】

〒894-3104 大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

50997-55-8620 fax 0997-55-8621

「奄美野生生物保護センター・奄美自然体験活動推進協議会」

【絵画展開催予定】 平成13年12月8日（土）～平成14年1月31日（木）

協議会活動報告



◆クラフト教室「オリジナルハガキを作ろう！」

日 時：平成13年7月28日(土)午後1:30～3:00

場 所：奄美野生生物保護センター(企画会議室)

【クラフト教室のようす】

今年も「奄美自然ふれあい行事」の一環として夏休み期間に奄美野生生物保護センターと共催で各種クラフト教室や自然観察会などを行いました。今回のクラフト教室は「リサイクル」をテーマに企画しました。近年では「環境にやさしい…」といった観点から不用になったものを再び活用する“リサイクル”の意識が高まりつつあります。そこで、夏の行事1回目は家庭でよく出るゴミの1つである牛乳パックを利用したハガキ作りを開催しました。手軽にできるリサイクルを楽しんでいただけたらと、道具も殆どリサイクルして作りました。作り方は、こちらで準備した①牛乳パック(1週間程度浸水させたもの)のカバーシールを剥がして細かくちぎり②ミキサーで更に細かくし③水と好きな色の絵の具、のりを混ぜ④和紙をつくる要領で水切りネット(金具ハンガーを四角に変形させてネットをかぶせる)に流し込み薄く広げ⑤押し花や折り紙などをのせて乾かすというながれで、楽しくハガキをつくりました。なかにはうちわの芯を持参されてオリジナルのうちわを作っておられる方もいました。みなさん、それぞれおし花を貼ったりちぎり絵風にしたり・・・とアレンジしてステキなハガキを作っていました。参加した子どもたちから「思っていたより簡単だった」「工夫してかわいいハガキができた」などの感想を聞くことができ嬉しいかぎりでした。是非、ご家庭でもつくっていただけたら幸いです。



◆クラフト教室「小石のへんしん！！」

日 時：平成13年8月5日(日)午後1:30～4:00

場 所：奄美野生生物保護センター(企画会議室)

【クラフト教室のようす】

クラフト教室の2回目は、道ばたや海岸・川などどこにでも落ちている「石ころ」が、アレンジ次第でステキな置物になる「小石のへんしん！！」を開催しました。

実際にみなさんとセンター近くの大和浜海岸にでかけ、小石を拾い集めることからはじめました。この日は晴天でとても暑かったのですが気に入った石ころをたくさん拾っていました。

清々しい汗をかいた後、センターで一息つき作品作りに入りました。拾ってきた石ころに絵の具で鳥や花などを描いたり、石をくっつけたり、みなさん夢中になって作っていました。

センターの図書コーナーの植物や動物の図鑑を参考にしながら、好きな動物や植物の細かい部分まで描いていました。子どもの付き添いでいらっしゃったお母さん方も真剣な表情で小石に絵を描いていたのがとても印象的でした。

海岸までの道のりのなかで、聞いたセミの声や目にした草・花、海岸での磯の香り、そして夏の強い陽ざしなどなど、・・・短い時間でしたが小さな自然も体感じていただけたのではないかと思います。



◆講演会&観察会「川の生きものたち」(大和村・名音川)

講演・観察会：平成13年8月8日(水)午後1:30~4:30

講師：澤志泰正さん(やんぼる野生生物保護センター)

◆講演会&観察会「川の生きものたち」(住用村・役勝川)

講演・観察会：平成13年8月9日(木)午後1:30~4:30

講師：澤志泰正さん(やんぼる野生生物保護センター)

※住用村での開催は「黒潮の森マングローブパーク」も共催です。

リュウキュウアユやテナガエビ、ハゼなど川の生きものを知っていただき川の自然に親しんでもらおうと、大和村と住用村で講演会と観察会を開催しました。大和村ではセンターで講演会をした後にバスで名音川まで移動して観察会を、住用村ではマングローブパークでの講演会後役勝川で観察会を行いました。両講演会では、スライド映写を使って奄美や沖縄の川にすむ生きものについて紹介し、生態や特徴、名前の由来などについて分かりやすく解説してもらいました。奄美大島の川にはリュウキュウアユをはじめ、ヨシノボリやウナギ、ユゴイなど川と海にまたがって生活する魚が100種類以上いるということや、河川工事などによる環境への影響、保全、「ブラックバス」や「テラピア」などの移入種問題についてもお話がありました。観察会では川のなかを歩きながら、また、なかには講師の澤志さんと一緒に親子で水に浸って水中観察をしました。アユやウナギ、ユゴイなど、川の生きものとの出会いがたくさんあった楽しい観察会でした

【 講演会のようす 】



【 観察会のようす 】



◆自然のふれあい『奄美自然観察の森で遊ぼう！！』

日 時：平成13年8月15日(水)午前10:00～午後3:00

講 師：作田 裕 恒さん(奄美自然観察の森)

奄美の豊かな自然のなかで楽しく遊ぶことをとおして、自然に親しんでもらおうと「奄美自然観察の森で遊ぼう！」を開催しました。奄美自然観察の森は原生林のなかにあり、ルリカケスをはじめ、奄美の固有の動物も多く生息しているので生きものたちに出会う機会も多い場所です。自然のなかでゲームなどの遊びをとおして、奄美の自然の素晴らしさやふれる楽しさを体感していただけたらと企画しました。

森のなかで見たり、聞いたり、触ったりしながら探す「ネイチャービンゴゲーム」や、聞こえてきた音を線などで表現する「音のスケッチ」、陸にもいる貝を探す「森の貝のたんけん」の3つのゲームを、作田さんの解説を交えながら、親子で楽しく遊びました。森の貝のたんけんでは、ヒロクチキセルガイやコケハダシワクチマイマイという2つの貝を探して虫メガネで観察しながらスケッチしました。コケハダシワクチマイマイはキイロスジホタル(幼虫)の食べもので、その貝の食べものがシイの実が腐ったものであることなど豊かな森のなかでみんなつながっているという、食物連鎖についてみんなで考えました。参加されたお父さんから「子どもたちが自然を満喫していたので良かった」との感想をいただきました。お父さんも母さんもお子さんと一緒に森のなかで楽しく遊び、奄美の豊かな自然を満喫していただけたのではないかと思います。

【 観察会のようす 】



◆クラフト教室「山のげいじゅつ家」

日 時：平成13年8月22日(水)午後1:30～4:00

場 所：奄美野生生物保護センター(企画会議室)

【クラフト教室のようす】

夏の行事最終日のクラフト教室「山のげいじゅつ家」は、山に落ちている枯れ木やまつぼっくりなどの木の实を拾い集めて写真たてや動物などの置物を作りました。この日は夏休みも終わりに近づいたということもあって、夏休みの課題や思い出づくりにと、親子連れや友達同士での参加がたくさんありました。この日も晴天に恵まれ、センター近くの裏山へ材料を調達しにでかけました。つるや木の实などたくさん集めてセンターに持ち帰り、子どもも大人も自分のなかでイメージーションをふくらませて真剣な表情で作っていました。枯れ木を束ねたり、つるを巻きつけたり、木の实を飾ったりして、写真たてや壁掛けなどセンス光る一品を完成させていました。少しずつ形になるたびに満足そうな、時には考え込むような場面がありとても印象的でした。また、友達と仲良く助けあっている姿や目を輝かせながら作っている姿そして完成させて喜んでいる子供たちを観ることができてとても嬉しく思いました。行事終了後に「楽しく作品を作ることができました。また来年も参加したい」という感想をいただき企画した私たちもこの上ない喜びでいっぱいになりました。

来年も、各行事終了後に答えていただいたアンケートを参考に、楽しい行事をたくさん企画したいと思います。



【 掲載記事 】

◆平成13年7月28日大島新聞

◆平成13年8月7日南海日々新聞

◆平成13年8月9日南海日々新聞

◆平成13年8月9日大島新聞

地 域 紹 介

コ ー ス

宇 検 村
()



◆◆◆このコースで見られる主な野生生物◆◆◆			
植 物			
動 物			

大和村では野生生物の保護 に関する条例が制定されました！

(大和村企画課 中島秋彦)

奄美大島は「東洋のガラパコス」と言われるように、貴重な野生生物が数多く生育しています。しかし、研究者以外の多くの地域住民はその貴重な野生生物についての知識が薄いように思われます。「どのような野生生物が希少種なのか?」、「なぜ、貴重なのか?」などについて地域の人々が意識を高めていくことにより、自然環境の保全・野生生物を保護する認識が生まれるものと思います。そこで野生生物の宝庫である大和村は、平成13年6月の定例議会において、奄美大島に生育する国の天然記念物と環境省のレッドリストに基づく野生生物の保護に関する条例を制定しました。これらの動植物を「殺傷・捕獲・採集・伐採・採取してはならないこと」とした条例です。

動物種については村内一円を対象としています。また奄美フォレストポリス（キャンプ場・水辺の広場）の約6haを保護地区に指定し、植物種も含めています。

§ 文化財保護法による奄美大島に生息する天然記念物（9種類）

- ・ 特別天然記念物： アマミノクロウサギ
- ・ 天然記念物： ルリカケス，アカヒゲ，オオトラツグミ
カラスバト，オーストンオオアカゲラ
トゲネズミ，ケナガネズミ，オカヤドカリ

§ 環境省の種の保存法で国内希少野生動植物種に指定され奄美大島に生育する生物種（8種類）

- ・ 動物種（5種類）： オオトラツグミ，アマミヤマシギ，アカヒゲ
ルリカケス，オーストンオオアカゲラ
- ・ 植物種（3種類）： ヤドリコケモモ，コゴメキノエラン
アマミデンダ

§ 環境省のレッドリストにある奄美大島に生育する生物種(保護条例対象種)

- ・ 動物種：(哺乳類.7種)，(鳥類.11種)，(爬虫類.4種)，(両生類.5種)
(陸・淡水魚類.17種)，(昆虫類.20種)，(甲殻類.9種)
(陸・淡水産貝類.36種)，計109種
- ・ 植物種：(種子植物・双子葉類.80種)，(種子植物・単子葉類.77種)

◆**奄美大島情報(寄せられた情報の一部です)**

§次号(第7号)のニュースレターで紹介する地域は「**龍郷町**」です。

秋に見られる野生生物

※参考文献：琉球孤野山の花図
：図鑑奄美の野鳥
：山溪ハンディ図鑑7

【 **イソシギ** 】 チドリ目・シギ科（全長20cm） 冬・旅鳥
生息分布： 南西諸島

雄雌同色で、成鳥の夏羽と冬羽の差異はない。頭から体の上面は暗緑褐色(灰褐色)で胸のわきが暗緑褐色におびており、のどから下面は白色で顔には白い眉斑がある。翼を広げたときに上面に細く白い帯がはっきりである。くちばしは灰黒色で足は緑黄色。全国の河原や海岸、干潟、草地などに生息しており、奄美では冬鳥だが中部地方北部以北では夏鳥である。繁殖期はつがいで行動し、非繁殖期は1羽でいるのがふつつである。歩くときに尾の付近を上下に動かす。特に夕暮れによく鳴く。



生息時期： 1月～12月

鳴き声： 「ピー」、「ピュピュイ」、「チーラーラー」など

【 **イソヒヨドリ** 】 スズメ目ヒタキ科（全長24cm） 留鳥
生息分布： 奄美諸島 方言名：イビリ、イウグツ

ほぼ全国の海岸などの岩場や岩壁、礫地、河川、山間のダムなどに生息している。奄美群島の海岸一帯にも留鳥として生息し、繁殖している。成鳥の雄は上面が青藍色で翼と尾が黒っぽく下面は暗赤褐色で、雌は上面が暗黒褐色で下面は暗褐色にうろこ状の模様があり雄とはまったく違う。繁殖期以外は1羽で生活する。非繁殖期も縄張りをもつ。尾羽をゆっくり上下に動かしながら獲物を探す。岩棚や崖のすき間、時には人工物のすき間などにも巣をつくり、子育てをする。周年さえずるが繁殖期によく鳴く。



(♂)

生息時期： 1月～12月

鳴き声： 「ツイーピーコー」、「チュルルピイヨー」、「ヒッ ヒッ」地鳴き

【 ゲットウ(サネン) 】 ショウガ科

生息分布： 九州南部以南

民家の周辺や林縁などでよくみかける多年生草本。偽莖は高さが2～3mで、葉は大きく長さ40～70cm位あり、葉縁には褐毛が密生している。また、花序は総状円錐花序で下向きに垂れており、長さが約20～30cmで花軸には褐毛が密生している。果実は長さが1.5～2.5cmで卵球形をしており赤く熟する。別名サネンと呼ばれており、葉に芳香があるので食べ物の包装に使われる。クマタケランによく似ているがクマタケランよりも大きく、花序が垂れ下がるので区別がつく。



§§§§ **生きもの目撃情報をお寄せ下さい** §§§§

当協議会及び奄美野生生物保護センターでは、各地の生きもの目撃情報を集めています。今までの目撃情報は、奄美大島が中心で、センター来館者や研究者によるものが殆どでした。奄美大島も含め、各地の生きもの情報が少ないのが現状です。奄美諸島には固有・普通種問わずたくさんの生きものが生息していることは知られていますが、詳しく分かっていないことが多いというのが実状です。目撃情報がありましたら、以前送付しました「生きもの情報マップ」をf a xでお知らせいただけましたら幸いです。

よろしく願いいたします。

編 集 後 記

§ 奄美も日毎に朝夕肌寒くなってまいりました。協議会の季刊紙「奄美の風だより」秋号も2回目の発行となりました。連載しています『地域紹介コーナー』においては、ご多忙にもかかわらず各市町村協議会担当課のみなさんに作成していただいたり、活動等に関するアンケートに快くご回答いただいたりと、ご協力を得ましてスムーズに活動を進めることができましたことを感謝しております。また、奄美野生生物保護センターといっしょに様々な行事を企画して開催しました。今後もみなさんからのご意見をご参考に充実した活動をとっています。

§ 11月中旬に初めて請島へ行きました。島内を徒歩や自転車でゆっくり廻りました。チョウゲンボウやサシバ、ハクセキレイ、マダラチョウや花など秋の生きものをたくさん目撃しました。1泊2日の小さな旅?でしたがとても楽しかったです。また季節をかえて、与路も訪ねてみようと思います。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

- 〒894-3192
鹿児島県大島郡大和村大和浜100
大和村役場 企画課
TEL: 0997-57-2111
- (連絡・書類等送付先)
〒894-3104
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
奄美野生生物保護センター内
TEL: 0997-55-8620
FAX: 0997-55-8621